

10. 柴山拓郎

Imaginary Sphere (Sound Installation)

designed by Takuro Shibayama @ ZKM in 2017–2018
system designed by Hidefumi Ohmura & Takayuki Hamano
produced at ZKM | Center for Art and Media Karlsruhe

この作品は 2015年から2016年にかけて、SMFと電子音響ピープルプロジェクトで実施したワークショップの85名の参加者の皆さんの完成作品を用いて作られています。それぞれの作品を構成している音の断片は、このコンピュータプログラムによって、より複雑性の高い状態へと変調され、複数のスピーカーにばらばらに解体され、空間投影されます。そのプロセスは、参加者の皆さんの作品が多層的に重なり合いながら、時間と空間の双方に淡く滲みを作っていくこととも捉えられます。また、この作品の大きな特徴は「この作品の作者はだれなのか？」という点が抽象化されている点です。人間の芸術的な活動の開始は、20,000～30,000年前だと考えられます。だとすると、現在の私達が当たり前として受け止めている、芸術の「創作-作品-受容」といった形は、長い歴史の中でのごくわずかな期間に確立した慣習に過ぎないともいえるでしょう。このような現在の慣習化された環境下で、社会的に構築される芸術の価値形成に係わる社会戦略と、創作そのものがどういった関係なのだろうか、ということについて大きく疑問を持ったことが、こうした作品（プロジェクト）を作るきっかけになっています。そしてそのきっかけは、ほかでもない2007年からはじまったSMFでの活動によって得られました。創造性を多様性に求めるとき、私自身、作家として自分にできることと、多様性の高いフィールドを広めていくことが、ある意味相反した方向性を持っているということに気づかされ、試行錯誤を重ねながら活動を継続しているところです。

この作品は、ドイツのカルスルーエ・メディアアートセンター (ZKM, Zentrum für Kunst und Medien Karlsruhe) で、音楽バージョンとサウンドインスタレーションバージョンとに分けて作られ、2018年6月末に、双方が同センターで初演・展示されました。

